

2016年6月26日

## 福音書からのメッセージ

イエスは、天に上げられる時期が近づくと、エルサレムに向かう決意を固められた。

(ルカによる福音書9章51節)

イエス様がエルサレムに向かうことは、十字架の死へと着実に足を進めていくことです。イエス様はその顔をあげ、エルサレムに向けました。ご自分の向かう方向をエルサレムへと、つまり、受難、死、そして復活へと定められたのです。

その道の途中イエス様は人々に、イエス様に従うとはどういうことかを伝えていきます。特に強調されていることは、他のことには気を留めずに、わたしのことを第一に考えなさいということのようです。しかしそれは何と難しいことでしょうか。

親子連れの姿を想像してみたいと思います。お母さんの言うことをしっかりと聞いて、ピンと背筋を張って歩く子がいます。またなかなか言うことを聞かずにお母さんを困らせている子もいます。また、なかなか前に進まない親子連れ、道端に花が咲いていればいっしょにその花を見て、飛行機雲を見つけたらじーっと眺めて、ゆっくりゆっくりと進む人たちもいます。

わたしはずっと、イエス様に従うというのは最初の親子のように、イエス様の言うことをきちんと聞いて、決まりも守り、寄り道しないで真っ直ぐについていくことだと思っていました。

しかし聖書を読んでいくと、そうでもないようです。イエス様がエルサレムに行く途中、どこへも寄り道せずに、振り返らずに歩いたかという、そうではありません。弟子たちにいろいろなことを教え、泣いている人がいたら共に泣き、苦しんでいる人の痛みを負い、倒れている人に手を差し伸べながら歩まれたのです。



わたしたちはイエス様に従うように、招かれています。わたしたち自身、何

度もよそ見をし、自分のことが気になり、イエス様から離れてしまうこともあるでしょう。でもイエス様は、あなたの手を決して離しません。一緒に歩こうと、イエス様はわたしたちを十字架への道へと招いてくださいます。

なぜイエス様はそれほどまでに、わたしたちを招かれるのでしょうか。それは十字架への道が、死で終わるようなものではないからです。

イエス様に従う先は、十字架が終点ではないのです。十字架で終わらない。そのあとに復活があるのです。わたしたちはイエス様の十字架の死と復活にあずかり、新しい命をいただくのです。十字架を背負い、イエス様に従う間には、様々な苦しみや痛みがあるかもしれません。しかしイエス様は約束してくださいます。わたしたちは生きる者となるために、イエス様と共に歩むのです。

わたしに従いなさい。その声に、わたしたちは希望をもって答えていきたいと思ひます。

### 桃山基督教会

〒612-8039

京都市伏見区御香宮門前町 184

TEL/Fax 075-611-2790

メール momoyama.kyoto@nssk.org

<教会ホームページ>

<http://momoyama.hannari.com/>